



大学 「日韓共同高等教育留学生事業」に外国語学部生が2年連続選出

韓国政府主催の「日韓共同高等教育留学生事業」において、昨年度に引き続き、2025年度も本学外国語学部生が日本人奨学生として2年連続で選出されました。

本事業は、韓国・ソウルの徳成女子大学にて実施される学部短期課程「日韓異文化コミュニケーションプログラム」で、日韓両国の学生が異文化理解を深め、国際的な視野を育むことを目的としています。奨学生には、航空券代・宿泊費・食費・プログラム費が支給されます。今年度は全国の大学から定員の約3倍の応募があり、学内選考を経て応募した3名のうち、外国語学部2年の新宮麻緒さんが最終選考を通過。新宮さんは大学入学前から韓国語を学び、1年次には飛び級で「韓国・

朝鮮語上級」を履修。韓国語能力試験(TOPIK)4級も取得するなど、高い語学力と学習意欲が評価されました。新宮さんは、8月4日～15日の約2週間にわたって本プログラムに参加し、日韓異文化コミュニケーションの理論や実践の学習、文化体験などを行いました。今後本学では、学生の挑戦を後押しし、グローバルな学びの機会を積極的に提供してまいります。



新宮さん

書籍紹介 『ゲーミフィケーション 消費者心理の変容と効果のメカニズム』(見洋書房)

経営学部 瀧田俊也教授の単著となる『ゲーミフィケーション 消費者心理の変容と効果のメカニズム』(見洋書房)が刊行されました。(以下見洋書房ホームページより引用)

ゲーミフィケーションによるユーザーの心と体の動きを解き明かす。ゲームの仕組みを商品やサービスに活用するゲーミフィケーションは、マーケティングにおいてますます注目されている。本書ではゲーミフィケーションの理論的枠組みを整理し、より効果的に活用するための手法を考察する。



著者: 瀧田俊也 見洋書房(2025年8月) / 4,290円(税込) ISBN: 9784771039735

書籍紹介 『ゾンビ・スタディーズ』(水声社)

外国語学部 新井保裕准教授が分担執筆した書籍『ゾンビ・スタディーズ』(水声社)が刊行されました。新井准教授は、第10章「ゾンビ映画」から読み解く韓国コミュニケーションのリアリティ——日韓コミュニケーション調査研究との比較を中心に」を執筆。ゾンビ映画を通じて、韓国と日本のコミュニケーション文化の違いを考察しています。(以下水声社ホームページより引用)

映画、文学、軍事思想史、コミュニケーション論、大衆消費社会、ポスト・ヒューマンズム、パンデミック……あらゆる表象の舞台を、さまざまな声なき主体の「代弁者」として彷徨うゾンビから、人間は何を受け取ることができるか。人文知を縦横に駆使し、ゾンビを客体化の範から解放放つまったく新しい試み。



編者: 岡田尚文・芹澤円 水声社(2025年9月) / 5,000円(税別) ISBN: 978-4-8010-0888-5 C0070

高校 探究活動でさまざまな賞を受賞しました!

- topic 01 ①クレ・ド・ポー ポーテ主催「STEAM Girls Award」で最上位の8研究に選ばれ、大阪万博で発表・表彰 ②トモノカイ主催「自由すぎる探究EXPO」で「金賞(ピア賞)」 「私たちの研究で未来の当たり前をちょっと変えたい!」 大塚彩寧さん(3萩)、太田詩乃さん(3萩)



左から大塚さん、太田さん

表彰式の様子

- topic 02 拓殖大学主催「オレンジカップ」で「審査員特別賞」 「いつでもどこでもお助け animals!! ~小さな安心が、大学生生活をもっと自由にする~」 伊藤静香さん(3萩)、秋葉祐里佳さん(3萩)



左から秋葉さん、伊藤さん

特集 注目のトピックス

Topic 01 夏のワクワクドキドキ! 「ナイトフェスタ」@ふじみ野幼稚園



イベントを楽しむ園児たち

ふじみ野幼稚園Instagram

Topic 02 留学生向け日本文化体験イベント 異文化マーケティング 「最高な日本文化を見つけよう」 外国語学部と経営学部学生が企画、早稲田大・明治大の留学生も参加 @本郷キャンパス



Topic 03 いろいろな夏イベントが盛りだくさん! 「ぶんきょう祭り」@文京幼稚園



文京幼稚園 Instagram



Topic 04 文京区主催の「プレイキン体験会」開催 人間学部卒業生でユース五輪金メダリストの河合来夢(RAM)さんが講師 @本郷キャンパス



RAMさんとポーズをとる参加者たち

Topic 05 健康増進公開講座 「毎日楽しく介護予防」開催 作業療法学科 國重雅史助教担当 @ふじみ野市立介護予防センター



Topic 06 「第2回防災フェア」で「防災特別講演&トークセッション」 人間福祉学科 中島修学科長・教授と人間福祉学科4年の新田誠二さんと稲子大翔さんが登壇 @ふじみ野ステラ・ウェスト



2026年4月より文理融合型教育が始動 「ヒューマン・データサイエンス学部」設置認可 ~ 既存学部の学びを生かした5番目の学部誕生 ~

文系・理系どっちも学部



文京学院大学 新学部誕生 ヒューマン・データサイエンス学部

これからの時代の ヒューマンスキルを

本学部のポイント

- データサイエンス・AIを活用し、社会課題の発見と解決力を育成
- 学生の関心に応じて学びを深められる柔軟なカリキュラム
- 企業・自治体・NPOと連携したPBL(プロジェクト型学習・課題解決型学習)を1年次から実施

学びの特色

「ヒューマン・データサイエンス学部」では、社会課題を見つけ出す力、データサイエンス・AIを活用する力、プロジェクトを運営する力といった“ヒューマンスキル”を体系的に育成します。環境問題、地域づくり、健康、国際協力など、現代社会が直面する多様な課題に対応するため、以下の3領域を設けています。

- ハルスケア
- 地域づくり
- 異文化間コミュニケーション

学生は関心のある分野を選択し、課題発見に必要な知識を習得。さらに、データの収集・分析・活用スキルを社会課題の文脈に沿って学ぶことで、データを“本当に役立つ形”で活用し、課題解決に導く力を磨きます。

1年次から企業・自治体・NPOと連携したPBLに取り組み、2年次までに社会課題の発見とデータ分析の基礎を習得。さらに、3年次以降には実践力を養成。理論と実践を融合させた教育を通じて、社会に貢献できる人材を育てます。

加えて、本学部の学びの舞台となる本郷キャンパスは、都市型キャンパスとして企業や自治体との連携が活発で、学生が実社会とつながりながら成長できる環境が整っています。データやAIの技術だけではなく、課題の本質を理解する力と現場での実践経験を三位一体で育むことで、社会に具体的な解決策を提示できる人材の育成を目指します。

本学部の設置は、急速に進展するデジタル社会において、文理の垣根を超えた人材育成が不可欠であるという認識に基づいています。人間中心の視点を持ち、テクノロジーを社会のために活用できる人材を育てることは、大学の社会的使命でもあります。今後の新学部「ヒューマン・データサイエンス学部」にご期待ください。

学部概要

学 部 名: ヒューマン・データサイエンス学部 学 科 名: ヒューマン・データサイエンス学科 学 位: 学士(ヒューマン・データサイエンス) 入学定員: 110名

ヒューマン・データサイエンス学部 特設ページ



ヒューマン・データサイエンス学部の 紹介動画はこちら

文理融合の新たな挑戦

学長 福井 勉



このたび、本学は文部科学省より「ヒューマン・データサイエンス学部」の設置認可を正式に賜りました。データサイエンスやAIを基盤に、既存学部の学びを生かし、文理を横断する新たな教育モデルを展開してまいります。設置にあたり、多大なるご尽力をいただいた新学部開設準備委員の皆様をはじめ、学内関係者、そしてご支援を賜った外部協力機関の皆様へ、心より感謝申し上げます。

本学部は、課題の本質を理解し、データサイエンスやAIを活用しながら現場で実践できる力を育成し、社会課題の解決策を提案できる人材を養成します。学生は「ハルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」の3つのドメイン(領域)を通じて学びを深め、課題解決に挑む力を身につけます。

今後とも本学の新たな挑戦にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

社会とつながる学びを

ヒューマン・データサイエンス学部 学部長(就任予定) 浜 正樹



このたび、本学に「ヒューマン・データサイエンス学部」が誕生しました。

学部の構想を進める中で私が大切にしてきたのは、データサイエンスやAIを単なる技術として学ぶのではなく、人の暮らしや地域社会にどう活かすかを考える教育です。

現代社会が直面する課題は、少子高齢化、医療・福祉の負担、地域の活力低下、異文化共生など多岐にわたります。これらの課題は、一つの学問分野だけで答えを出すことが難しく、さまざまな知を結びつける視点が求められています。

そこで本学部では、「ハルスケア」「地域づくり」「異文化間コミュニケーション」という3つの領域を設定し、文系・理系を超えた学びを展開していきます。

学生の皆さんには、教室での学びだけでなく、企業や自治体、NPOなどとの協働を通じて、実際の現場で課題を発見し、データをもとに解決策を提案する経験を積んでもらいます。その過程で、知識に加えて、仲間と協力する力や社会に提案する力も磨かれるはずです。

新しい学部での学びが、皆さん一人ひとりの未来を拓くだけでなく、社会全体のより良い未来づくりにつながることを願っています。

高校生が社会課題に挑戦！ ソフトバンク社と合同で アイデアソンを初開催

2026年4月に開設予定の「ヒューマン・データサイエンス学部」のカリキュラムを体験的に学ぶ機会として、PBL科目でも連携を予定しているソフトバンク株式会社の協力のもと、高校生を対象とした社会課題解決型イベント「アイデアソン」を開催しました。

8月19日・20日・21日・23日の4日間にわたり行われた本イベントには、本学併設高校の2年生、ヒューマン・データサイエンス学部に関心を持つ高校3年生、さらに高専生など多彩なメンバーが参加しました。生徒たちは5チームに分かれ、社会課題（子どもの不登校や社会的孤立、オーバーツーリズムなど）と身近なコンテンツ（推し活、旅行、ゲームなど）を組み合わせ、スマートフォンアプリを用いた課題の解決策を検討。本学の大学生がメンターとして伴走し、ソフトバンクのエンジニアからの助言を受けながら、Webデザインツール「Figma」を用いたアプリ画面のデザイン制作を通してアイデアを具体化しました。最終日には完成したアプリが次々と発表され、課題解決力、アイデアの独創性、チームワーク、そしてアイデアを形にする力といった観点から評価が行われました。中には、「すぐに実用化できそう」と高く評価される作品もありました。

今回のアイデアソンを通じて、「課題の本質を理解する力」「データサイエンスやAIを活用する力」「チームをまとめるマネジメント力」を掛け合わせて育成する「ヒューマン・データサイエンス学部」の魅力や、生徒たちに実感してもらうことができました。



大学 コモンズ投信株式会社との 包括連携協定を締結

9月1日、本学はコモンズ投信株式会社（代表取締役：伊井哲朗）と包括連携協定を締結しました。本協定は、社会事業分野、特に保育・福祉・医療分野の社会起業家との接点づくりおよび交流拡大を目的としています。

コモンズ投信株式会社は、社会課題解決に取り組む起業家たちが活動やビジョンを共有する「社会起業家フォーラム」を主催しており、本学ではこれまで、本イベントの施設提供や運営協力などの支援を重ねてきました。

今後、両者の協力関係をさらに深めることで、本学学生の社会課題解決への意識を高め、独創的かつ実践的な学びの機会を提供していきます。



大学 高島屋と連携 AIで江戸小紋の未来を紡ぐ

9月1日、本学は株式会社高島屋と産学包括連携協定を締結し、受託研究「ヒト×AIの共生による地域産業活性化プロジェクト」を始動しました。

経営学部・川越仁恵教授のゼミでは、江戸小紋の古作を分析し、図案制作理論の体系化に成功。さらに、図案考案の難所である「ランダム配置」を解決する独自のアルゴリズムを他大学のAIエンジニアと共に開発し、AIによる図案生成プログラムを完成させました。これにより、職人の負担軽減と新作開発の効率化が可能となり、2024年には「スイーツ尽くし小紋」が商品化されました。

一方、高島屋ではサステナブルアクション「TSUNAGU ACTION」を推進し、伝統工芸の継承に力を入れています。両者の理念が合致し、地域産業の活性化を目指す本プロジェクトがスタートしました。今後は経営学部・吉田啓佑助教のゼミも加わり、学生と高島屋社員が協働し、商品開発や店頭展開に加え、江戸小紋以外の新たな活用方法も模索していきます。

現在、江戸小紋の制作現場では、図案家の専門家が一人のみとなり、分業体制が危機に瀕しています。AIは職人の仕事を奪うものではなく、支える存在として、伝統の継承と産業の未来をつなぐ役割を担います。

9月22日にはキックオフ・ミーティングを開催し、これからの活動方針や商品開発について話し合いを行いました。川越ゼミと高島屋との挑戦は、今後動画やホームページで配信していく予定です。



大学 クールアースフェアに出展 ～学生437名の声をもとにSDGsアクションを提案～

8月2日、文京シビックセンターで開催された「クールアースフェア2025～目指せ！カーボンシティ～」(主催:文京区)にて、人間学部 環境ゼミ(指導教員:中山智晴教授)に所属する3・4年生が出展を行いました。出展テーマは「未来のために、今できること～SDGsと学生の声から生まれた環境アクション～」。

展示では、学生が主体的に取り組む「まちラボプロジェクト演習」での活動例や、「なぜCO2削減が進まないのか」という問いに対する学生の意見も紹介。経済的利害や情報不足、行動変容の難しさなど、学生ならではの視点から考える環境課題とその解決に向けた学生の具体的な取り組み事例を紹介しました。

来場者からは「学生の率直な声が印象的」「身近な行動の大切さを再認識した」との声が寄せられ、展示を通じて環境問題への理解と共感が広がりました。

大学 読書の魅力を語り合う 外国語学部 初年次セミナーで ビブリオバトル決勝

7月23日、本郷キャンパスにて、外国語学部1年生を対象とした「初年次セミナーa」の授業内で、ビブリオバトル決勝が開催されました。発表者は各チームの代表14名で、それぞれが「面白い」と感じた本を持ち寄り、5分間で紹介しました。

すべての代表者の発表が終わった後、参加者は「一番読みたくなった本」へ投票し、チャンプ本を決定。優勝は『超合理的!ミステリーの書き方』を紹介した鈴木新菜さん、準優勝は『バナナと日本人』を紹介したナホル ランデルロイス インシオンさんでした。本を通じて異なる背景を持つ学生同士が交流し、知的好奇心を刺激し合う貴重な機会となりました。



高校 バレーボール部 ビーチバレーで 関東大会「準優勝」 「国民スポーツ大会」へ 東京都代表で出場

8月23・24日、立川市のタチヒビーチで行われた「立川立飛CUP 第8回関東高等学校ビーチバレーボール選手権大会」に、今井理梨花さん(1楓)・佐野倅春さん(1藤)のペアが出場し、見事「準優勝」に輝きました。

また、同ペアは、5月の東京都予選で優勝、7月に関東ブロック予選を勝ち抜き、9月5日から始まる「第79回国民スポーツ大会」"わたしのSHIGA輝く国スポ" (滋賀県) バレーボール競技(ビーチバレーボール種目)に東京都代表として出場し、「第7位」となりました。全国予選を勝ち抜いた24チーム中、1年生は3名のみで、唯一の1年生ペアでした。

琵琶湖畔に特設されたビーチバレーコートで、ほとんど風もなく非常に暑い過酷な条件での連戦となりましたが、東京都代表として1年生ながら非常に頑張っていました。この経験を活かして、10月から始まる春高予選に繋げていきたいと思っています。

大学 米・カプリオカレッジから 留学生2名が来日 インターンシッププログラムを実施

人間学部 児童発達学科では、毎年アメリカ・カリフォルニア州公立カプリオカレッジ幼児教育学科から留学生2名を受け入れるインターンシッププログラムを実施しています。

今年度は6月27日～7月14日、PattyさんとOliさんが来日し、ふじみ野キャンパスで学びました。キャンパス内にある保育実践研究センター「ふらっと文京」や併設幼稚園でのインターンシップを通じて、子どもたちとふれあひながら実践的な学びを体験しました。また、県内の認定こども園や保育園を視察し、日本の保育制度への理解も深めました。

さらに、東京スカイツリーや渋谷などの観光地への訪問や、ホームステイも体験。BUNKYO GCI(グローバル人材育成プログラム)や国際こどもコースの授業にも参加し、学生たちは準備したアクティビティを通じて積極的に英語で交流しました。笑顔あふれる国際交流の時間となり、異文化理解を深める貴重な機会となりました。

大学 「国際連携教育プログラム」 開講式を開催

8月29日、本郷キャンパスのB'sダイニングにて、「国際連携教育プログラム」の開講式が開催されました。今年度は、アメリカ(セント・ベネディクト/セント・ジョンズ大学 [CSB/SJU]) から15名、カザフスタン・ウズベキスタン・トルコから各2名、ラトビアから1名、計22名の交換留学生が本学で学びます。

式では、島田昌和学院長・理事長による歓迎の挨拶に続き、福井勉学長がピアノ演奏とスピーチを披露。司会は外国語学部4年で留学特待生のセヴェリ―二聖羅さんが務めました。また、CSB/SJUの引率教員であるMajel先生も登壇し、留学生とともに元気に自己紹介を行いました。

9月7・8日には、富士吉田市にて本学生と留学生が交流する一泊二日の研修を実施。美しい富士山の姿を見ながら、山梨県の郷土料理「ほうとう」作り等を行い交流を深めました。留学生は、根津神社での神輿体験や、藍染め等を体験できる藤沢市との連携プログラム「Global Bluehands Project」にも参加予定です。

←一泊二日の研修で交流を深める

中高 ソフトテニス部、個人戦で奮闘!

ソフトテニス部が、中高ともに個人戦で目覚ましい活躍を見せました。

中学生は「文京区秋季ソフトテニス大会」個人戦で「優勝」と「第3位」に入賞し、団体で「準優勝」となりました。また、8月18日に大妻中野杉並グラウンドで開催された「東京都立中学校テニス選手権大会」では、出場した3ペア全員が予選決勝に進出し、決勝トーナメントに進んだ2ペアのうち1ペアが見事「第5位」に輝きました。

ほとんどの選手が中学校入学後に初めてラケットを握った初心者でしたが、暑い夏も寒い冬も、日々の練習に真摯に取り組み、着実に力をつけてきました。その努力が結果として実を結んだことは、部員たちの大きな自信につながっています。

高校生も「令和7年度 関東高校ソフトテニス大会予選」において団体「第5位」という好成績を収め、7月21日に高島高校で行われた「城北地区大会」では、「優勝」、「第3位」、「ベスト16」と、3ペアが入賞しました。

中高ともに、個人の技術力とチームの団結力が光る大会となりました。今後のさらなる飛躍が期待されます。

高校 高校生2名の作品が書道展で「入選」

「第41回読書書道展」(主催:読売新聞社・読売書法会)に橋本心花さん(3梅)の作品が公募出品され、漢字部門で「入選」を果たしました。橋本さんの作品は、紺地に金色の文字を一字一字丁寧に書き上げた力作です。完成までには集中力や根気といった「心の強さ」が求められました。

さらに、「第61回全国学生書道展」(主催:公益社団法人創玄書道会)には、松下怜奈さん(3梅)の作品が公募出品され、こちらも見事に「入選」となりました。松下さんは、力強く迫る作品を目指し、200枚以上の練習を重ねて仕上げました。

いずれも大人の作品と並んで審査されるレベルの高い展覧会であり、東京都美術館での展示も行われました。

書道部は世界の高校生たちが腕と感性を競い合う「書の甲子園」「国際高校生選抜書展」をはじめとした、さまざまな展覧会で上位入賞を目指して日々活動しています。文芸祭では校庭での書道パフォーマンスや作品展示も予定されており、部員たちの努力の結晶をぜひ多くの方にご覧いただきたいと思ひます。今後のさらなる活躍にも、どうぞご期待ください。

中高 駒込キャンパスで撮影された映画が国際映画祭へ 『終点のあの子』2026年公開予定

この映画は、柚木麻子のデビュー作を原作とした青春ドラマです。昨年春に駒込キャンパスで撮影が行われました。

舞台は私立女子高校。中等部から進学した希代子と奈津子、そして外部から編入してきた帰国子女の朱里との出会いを通じて、少女たちの繊細な友情と心の揺れを描きます。思春期の葛藤と成長を丁寧に描いた作品です。

吉田浩太監督からのメッセージより(一部抜粋)

このたびは、文京学院大学女子高等学校の皆様のご厚意により、映画の撮影をさせていただきましたこと、心より御礼申し上げます。私事でございますが、文京学院大学女子高等学校は、私の妹と姪が通っていた学校でもあり、個人的にも非常に深いご縁を感じております。駒込・巣鴨という都心に位置する高等学校で撮影を行うことは、通常ではなかなか難しいことですが、関係者の皆様のご理解とご協力のおかげで、奇跡のような体験をさせていただきました。

撮影中には、東京の街並みを一望できる教室や廊下、ピンク色の花が咲く庭、六義園に面したレンガ造りの通学路など、どの場所も美しく、心に残る思い出となっております。在校生の皆様がいっしょの中で撮影となり、ご迷惑をおかけした場面もあつたかと存じますが、生徒の皆様はいつも笑顔で爽やかにご挨拶ください。その姿がとても印象的でした。このような素晴らしい機会が撮影できたこと、そして先生方や生徒の皆様にご協力いただいたことは、私の映画人生においておかけがえのない、貴重な経験となりました。

本作は、2025年6月に開催された上海国際映画祭にて招待上映され、日本のみならず海外の多くの方々にもご覧いただき、「美しい映画」とのご感想を多数頂戴いたしました。

文京学院の校舎を舞台に、富貴あみさん、中島セナさんをはじめとする若い感性あふれる学生たちが躍動する映画『終点のあの子』を、ぜひ映画館にてご鑑賞いただけたら幸いです。



上海国際映画祭にて

映画『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』 公開直前 スペシャル・トークイベント開催!

『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』
2025年10月24日(金)より全国公開

本郷キャンパスにて、話題の映画『富士山と、コーヒーと、しあわせの数式』の特別上映と豪華登壇者によるトークイベントを開催します!

開催日 10月18日(土) 開場 13:30
会場 仁愛ホール(本郷キャンパス)

スケジュール
特別上映 14:00～14:20(20分)
トークイベント 14:20～15:00(40分)

登壇者(予定)
市毛良枝さん、酒井美紀さん、八木莉子さん、中西健二さん(監督)、まなべゆきこさん(脚本家)

映画の世界観を体感できる貴重な機会です。席は申込制で、席に空きがある場合は、当日入場できます。HPでイベント情報を発信しています。